2-8	演題	『あつまれ！なみき』で紡ぐ未来
	副題	～産学民連携の拠点作り～

		法人名	社会福祉法人 若竹大寿会
		施設名	横浜市富岡東地域ケアプラザ

発表者名（職種）	鈴木 伸貴喜・村上 理香
共同発表者	松原　理恵子
共同発表者	
共同発表者	
共同発表者	

都道府県	神奈川県
住所	横浜市金沢区富岡東 4-13-3
TEL	045-776-2030
FAX	045-770-5010
メールアドレス	
URL	

今回の発表施設またはサービスの概要	2005 年 1 月開所。当地域ケアプラザでは、①地域包括支援センター、②生活支援体制整備事業、③地域活動交流事業、④居宅介護支援事業、⑤高齢者通所介護の 5 部門を運営。地域ケアプラザの担当地区の人口は約 1.5 万人、高齢化率は約 37% と市平均約 25% よりも高くなっています。

地域ケアプラザ担当地区内にある金沢シーサイドタウン地区（以降は地区と呼称）は高齢化率が約 43% と市内平均を大きく上回り、約 30 の自治会が存在する。地区内の約 95% が集合住宅であり、その内約 50% の住宅にはエレベーターがない。住宅事情と高齢化が合わさり、地域住民だけでは解決できない様々な地域課題がでている。『住民主体』の地域課題解決に限界を感じている金沢シーサイドタウン地区社協からの相談を受け、地域と地域ケアプラザがタッグを組み、課題解決の為の産学民連携に取り組んだ。

研究の目的、PR ポイント

地区内の身近な活動場所に、集会所として利用することが多い管理組合事務所があるが、自治会員以外の利用には制限がある。その他に地区内には金沢区スポーツセンター、コミュニティハウス、地区センター、地域ケアプラザなど公的な貸室も存在する。こうした地区事情から、地区内には『支えあい・協働』が生まれにくい環境、及び QOL を維持するには『フレイル予防』の重要性が高い環境である。人口減少・高齢化が進む地区で既存の地域活動の維持や新たな取り組みの創出には『支えあい・協働』の環境づくりが不可欠であり、『フレイル予防』の効果を高める取り組みを増やす必要がある。産学民連携に取り組むことで、この地区の課題に対して必要なものを明らかにする。

取り組んだ課題

自治会や取り組みの対象（子育て、高齢向け等）が異なると協働・共有できるテーマでも、活動場所等により別々に取り組んでいる為、同じ問題・課題を抱えている仲間に気付くことができない。また介護保険の隙間を埋める生活支援の有償ボランティアも、高齢化により、受けられる件数や内容が減少傾向。個人でもグループでも困りを解決できないままになることが多い為、『支えあい・協働』の土壌作りが必要であると考えられる。また階段昇降を自力で出来ないと、自由な外出が困難となる住宅事情があり、QOL を下げない為には『フレイル予防』に取り組むことが必要。

活動の成果と評価

具体的な取り組みを通して、栄養に関する講座の食材調達、活動場所の提供、物品の貸し出し、協賛金の出資などを協力してくれる企業が存在し、学生ボランティアの募集や研究に合わせた共食・配食の提案などの近隣にある学校の協力も得られ、産学民連携で課題解決をできることが分かった。また生活支援の課題解決には、住民だけでなく企業との協働が必要だと分かった。フレイル予防 3 本柱の『栄養』に取り組むと、「実はどれだけ運動しても体力がつかなかった。持ち運びがしやすいカップラーメンで済ませていた。」など、栄養面での課題も地区内にあることが分かった。

今後の課題

地域課題解決の為の産学民連携であるが、特定の企業だけの利益を追求しているように見える。また今後は、行政・区社協を交え、より地区に密着した取り組みを展開していく必要がある。

参考資料など

・厚生労働省ホームページ
『健康長寿に向けて必要な取り組みとは ?100 歳まで元気、そのカギを握るのはフレイル予防だ』
・『金沢ささえあいプラン・第 4 期金沢区地域福祉保健計画地区別計画・金沢シーサイドタウン地区』